

平成28年（2016年）3月20日発行

学位取得 おめでとうございます

生涯学び続ける 技術者たれ

卒業おめでとう。卒業研究という集大成のハードルを見事に乗り越え、晴れて卒業の日を迎えた皆さんに、心からお祝いの言葉を贈ります。

皆さんが入学した2012年は、春に東京スカイツリーが開業、夏にはロンドンオリンピックが開催され、秋に

思った人も多かったのではないのでしょうか。

そんな入学間もない頃の自分を、もう一度思い浮かべてみてください。そして、あの頃はできなかったけれど今はできるようになったこと、あの頃は知らなかったけれど今は他人（ひと）



学長
成田 健一

はIPS細胞の山中氏がノーベル賞に輝きました。そんな明るい出来事の方で、3・11東日本大震災の爪痕は深く、本格的な復旧はまだまだという年でした。皆さんの中には、そんな被災地の現実を目のあたりにして、自分も何らかの形で被災者の力になりたいと

に説明できるようになったことを、一つひとつ数えてみてください。屹度、数え切れないくらいあるはず。この4年間で、皆さんは様々な体験を通して専門力を十分に身につけてくれたと、私は信じています。

しかし、卒業は決して終了ではありません。

世の中には2種類の人間がいると、私は思っています。それは「生涯学び続ける人」と、そうでない人です。「職業に貴賤はない」と昔から言われますが、「人の生き方」には明らかに貴賤があります。どうか皆さんは、生涯学び続ける技術者になって、素晴らしい人生を切り拓いてください。

身につけた技術を 大きく伸ばす目線



理事長
柳澤 章

みなさん、学位取得、おめでとうございます。そして、ご家族のみな様に心よりお祝い申し上げます。

この緑豊かな設備の充実したキャンパスで、4年間、それぞれの分野で工学の理論を学び、また実験、実習、研究、製作に取り組んでこられ、今、羽

ばたときを迎えられました。

日本工業大学は、現場で現物にじっくり向き合う学びを、学園創立以来、110年にならうとする歩みの中で教育の柱とし、本学園からおよそ半世紀にわたって引き継ぎ、深化させてきました。ものをつくり出し、改善を図

これから、みなさんは大学で学んだ技術をビジネスのステージで本格的に鍛え上げていくとしていきます。そこでは熾烈な競争のもと、各企業は技術・商品・サービス開発にしのぎを削っているのはもちろんですが、今あらためて問われているのは、その会

ることは、試行錯誤を厭わず、とことん探究する資質を鍛えます。いい結果がなかなか出なくても、好きであればこそ食らいつく。そのスピリットはメイドインジャパン品質の優秀さを支えるかけがえのないものであり、他に代えがたい強みとなるでしょう。

社、その仕事は社会にとって必要なのか。ということだといえます。

新社会人となるみなさんにとって、しばらくは仕事を覚えることで精一杯でしょう。そんな折、自分が見えなくなりそうになることがあるかもしれません。そうしたとき、ものを

つくる原点に立ち返り、社会にとっての価値を見つめてみることも大切です。会社員としての頭でなく、社会人、生活者の目線で見直すことは珍しくありません。例えば高齢者や被災地に関わる中で、人々が求める技術・サービスが肌感覚でわかってくる。これをビジネスにフィードバックして成功している人は少なくありません。様々な現場に自分の技術を触れさせることは成長のチャンスとなるのです。大いに活躍されることを祈念し、私からの祝いといいたします。

今年度も本学の環境活動が高く評価され、2団体から表彰

経済産業省「エネルギー管理優良事業者表彰」

サステイナブルキャンパス評価「ゴールド」認定



サステイナブル推進協議会理事長より認定証を授与される佐藤教授



関東経済産業局長表彰状を授与された柳澤理事長(左)と本学出席者

省エネへの貢献が評価
関東経済産業局長表彰

2月18日、本学宮代キャンパスが経済産業省主催の「エネルギー管理優良事業者表彰」で「関東経済産業局長表彰」を受賞した。この賞は、毎年2月の「省エネルギー月間」に合わせて、省エネルギーの普及促進を図るために、省エネルギーへの貢献が顕著であった優良事業者等および功績者が表彰される制度。今年度は、静岡・山梨を含む関東地区で9事業者が受賞した。

ASCCサステイナブルキャンパス評価「ゴールド」認定

2月29日、京都大学で開催されたサステイナブル推進協議会(CAS-

Net JAPAN)主催の「サステイナブルキャンパス評価システム(ASCC)」認定制度により、本学が上位2位にあたる「ゴールド認定」を獲得した。ASCCとは「持続可能な環境配慮型社会の構築に貢献する大学キャンパス」を促進する取組みの一環として導入された評価・認定制度で、①運営②教育と研究③環境④地域社会の4部門をアンケート結果から分析・評価する。認定校は「プラチナ」が名古屋大学、「ゴールド」は本学を含む8大学。認定式後の各大学の活動事例発表では、環境教育検討部会長の佐藤彰教授が本学の環境保全活動について説明を行った。

専門職大学院だより

グローバル化とプロジェクトマネジメント

大学院技術経営研究科・教授 高篠 昭夫

昨年4月よりプロジェクトマネジメントの授業を担当しています。現在(2月時点)、院生の皆さんは特定課題研究に取り組んでいる最中です。その中には海外での事業改革、新規事業の展開といったテーマも含まれ、グローバル化の進展が感じられます。

私事で恐縮ですが、30年前に米国で工場の建設と現地生産化のプロジェクトに携わりました。現地の人々とプロジェクトを推進したわけですが、企業活動として日

程、投資、コストなどの制約条件が入ると、日本人と現地の人たちとの間で、仕事の考え方・進め方、価値観、習慣の違いから緊張関係や摩擦が生じ、その軋轢に随分苦労し、悩まされたものでした。当時はまだ海外の人たちと仕事をすることでも「異文化コミュニケーション」といった研修などもありませんでした。海外での事業展開に関するトラブル事例を見ると、①意思疎通(技術英語の知識も含む) ②ネゴシエーション・プレゼ

今日では、「異文化コミュニケーション」が更に踏み込んで「多文化共生」といった研究領域まで広がっており、その研究成果がグローバル化への対応としてビジネスにも生かされています。外国でのプロジェクトばかりでなく、日本に居ても外国人を交えたプロジェクトが特別なことでなくなってきたと思います。文化的背景の異なる人たちとチームを組む交流し、計画通りに仕事を成し遂げるためには、どのようにプロジェクトをマネジメントしていけばよいのか。グローバル化に対するプロジェクトマネジメントの課題の一つです。来季の授業の中でこの「異文化コミュニケーション」についても取り上げてみたいと考えています。

平成
二十七年度
卒業生一覧
3月20日付
確定者

早期卒業

機械工学科

ものづくり環境学科

創造システム工学科

電気電子工学科

情報工学科

平成27年度 学長賞受賞者

先の選考委員会を経て、平成27年度学長賞の対象学生が決定した。本賞は、毎年優秀な卒業生に対し授与され、今年度も大学院生2名、学部生15名が受賞した。

工学部

学 科	氏 名	出身校
機械工学科		
ものづくり環境学科		
創造システム工学科		
電気電子工学科		
情報工学科		
建築学科		
生活環境デザイン学科		

大学院

機械システム工学専攻	
電子情報メディア工学専攻	



フォーミュラ工房の活動

本年度のカレッジマイスターとして31名が認定され、学位記授与式において学長から認定証とゴールドメダルが授与される。素養を身に付けた者として、今後それぞれの活動の場において、工房教育プログラムで身に付けたものづくりにおける高い総合力を遺憾なく発揮し、社会に大きく貢献することが期待される。

カレッジマイスタープライマリーには、本学の実工学教育におけるものづくりの基礎を徹底的に学んだ者として51名が認定され、4月の各学科のオリエンテーションにおいて認定証が授与される。認定された諸君には、その積極的姿勢ともなっている。認定された諸君は、ものづくりにおける基礎力を活かして自らの能力を一層高めるとともに、実工学を学ぶ者の模範として益々の活躍が期待される。

カレッジマイスターに82名認定

リーダーとしての活躍を期待

て益々の活躍が期待される。

■エクセレント

機械加工工房（9名）、型技術工房（8名）、フォーミュラ工房（1名）、モノ創りデザイン工房（2名）、ロボット創造工房（4名）、マイクロ・ナノ工房（3名）、マイコン応用回路工房（2名）、2×4木造建築工房（2名）

■プライマリー

フィジカルコンピューティング工房（11名）、物理体感工房（3名）、ものづくり入門工房（37名）

生活環境デザイン学科



大学院工学研究科修了生

●博士前期課程

宮代キャンパス学位記授与式 3月20日（日）

大学院技術経営研究科修了生

（予定）

●専門職学位課程

神田キャンパス学位記授与式 3月19日（土）

自動車からの大気汚染

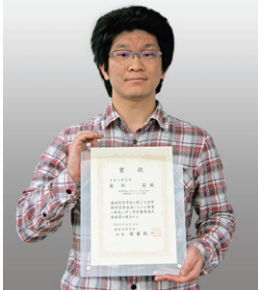
1月9日、本学学友会館において『自動車からの大気汚染とその対策』をテーマに環境特別講演会を開催した。本講演会は本学の環境教育と一般普及を目的として例年開催しているものである。



講師の山田裕之氏

講師に交通安全環境研究所主席研究員の山田裕之氏を迎え、学生と教職員を中心に一般も含めて180名余の参加があった。成田新学長の挨拶、趣旨説明と本学の環境教育の概要紹介に引き続き、講演が行われた。折しも、中国都市部の大気汚染の深刻さが報道される中、海外自動車メーカーの排ガス不正が発覚し世間を騒がせているところである。山田氏はエンジンの分野から自動車の大気環境汚染への影響評価へと進み、現在は、排ガスのVOC（揮発性物質）やPM2.5等の評価や調査に、高度な分析技術を駆使して取り組んでいる。講演では、大気汚染の歴史や内燃機関の仕組みなど平易なところからはじめ、次いで、具体的な測定や評価、後処理技術などを解説した。さらに、運転者への影響や停車時のガソリン揮発が大きいことなど、研究で明らかになった興味深い話題に触れ

森林利用学会より受賞



機械システム工学専攻博士前期課程2年（櫛橋研究室）の菊地高君が12月5日、森林利用学会の学生優秀論文発表賞を受賞した。受賞論文名は「救命要請のためのデータ伝送可能な自動発報ボイスの開発」。

は、負傷者が呼び子と呼ばれる笛を吹いて周囲に知らせる。現場では限られた人員で会社や消防署への通信の確保、負傷者のケアと運搬を行うこととなり、多くの時間を必要とする。本研究は、負傷者の発見および救命救急要請を迅速に行うため、負傷者の行動不能を捉えて自動的に発報する電子ホイッスルを開発。周囲への通報に加え、発報音にデジタルデータを重畳させたことで、会社への連絡を自動化するシステムへと発展が可能となり、研究の有効性を示した。森林作業の現場のほか、迅速な救命救急活動が必要とする様々な現場での利用が期待される。

梅花香る中 天満宮例祭を挙行



玉串奉奠を行う成田学長

毎年恒例となっている日本工業大学天満宮例祭が2月20日11時より、天神門横の社前において厳粛に執り行われた。当日は、田川崇敬会会長をはじめ役員各位、柳澤理事長、成田学長以下、各学科主任と部・課長、さらには学生自治会から山本中央執行委員会委員長をはじめとする8名の幹部学生が参列。宮司の祝詞の中、玉串奉奠などが行われ、その後、アルテリーベ（談話室）に場所を移し直会が催された。本年も参列者一同が学生諸君のより一層の学業向上と繁栄を祈念し、滞りなく例祭が終了した。

留学生別科修了式挙行 アジア4カ国出身の25名が修了

修了式は2月27日、学友会館にて執り行われ、修了生18名のほか、半期進学成績優秀者7名が出席した。出身国別ではベトナム14名、中国9名、台湾1名、タイ1名。

修了生たちは成田学長から修了証書を授与され、学長や柳澤理事長から激励の告辞を受け、今後の目標への決意を新たに誓った。彼らのうち8名は本学に進学・入学し、2名は研究生として大学院進学を目指す。他の主な進路としては、国内専門学校入学が8名、日本語学校入学が5名などとなっている。

KMUTT副学長一行 学内施設や工房を見学



12月9日、タイのキングモンクット工科大学トンブリ校（KMUTT）のワイワット副学長を団長に、同大学付属高校教員一行6名が来学した。来学の主目的は、KMUTTの付属高校で「ものづくり教育」をスタートするに先立ち、本学の工房教育の実施状況を視察することにある。はじめに竹内貞雄学生支援部長から本学の実工学教育と工房教育プログラムの概要を聞いた後、機械加工



工房、フォーミュラ工房と塑性加工研究室を見学。機械加工工房では充実した設備とクリーンな作業環境に感嘆していた。フォーミュラ工房では車両製作に際しての課題と解決方法に耳を傾けていた。学長表敬に引き続いて来賓からKMUTTの概要が紹介された後、ものづくり教育全般について意見交換を行った。午後は物理体感工房、鳥人間チャレンジ工房、ものづくり入門工房、工業技術博物館を見学し、いづれにおいても充実した設備と人材の豊富さに感心していた。



工業技術博物館を見学する副学長一行

人事異動

- 【退任】（12月19日付）波多野純学長（任用）（12月20日付）波多野純教授（生活環境デザイン学科）【任命】（12月20日付）教務部長 神野健哉教授 学生支援部長 竹内貞雄教授 教育研究推進室長 神雅彦教授 英語教育センター長 兼 波多野純教授 教育研究推進室長補佐 勝木祐仁准教授（2月1日付）機械工学科主任 中野道主教授 電気電子工学科主任 青柳稔教授 電気工学専攻幹事 吉野秀明教授 電子情報メディア工学専攻幹事 吉野秀明教授 【解任】（12月19日付）教務部長 成田健一教授（1月31日付）機械工学科主任 神雅彦教授 神雅彦教授 電気電子工学科主任 神野健哉教授 電気工学専攻幹事 青柳稔教授 電子情報メディア工学専攻幹事 青柳稔教授 【定年退職】（3月31日付）石川孝教授（情報工学科） 武田光史教授（建築学科） 川村清志教授（生活環境デザイン学科） 城戸卓男教授（共通教育系） 丹羽次郎准教授（情報工学科） 貴井光男講師
- （ものづくり環境学科）宮国勉助手（建築技術センター） 松本勇一郎主事（LCセンター事務課） 【退職】（3月31日付）梅崎崇作教授（機械工学科） 有賀幸則教授（機械工学科） 岡崎昭仁助教（スチューデントラボ） 岡本卓也助教（共通教育系） 齋藤弘雄講師（共通教育系） 二宮祐講師（共通教育系） 森塚千絵講師（共通教育系） 【配置換え】（3月1日付）一丸敬典総務課員 ↓法人本部 小林有美子総務課員 ↓教務課 宮本智子教務課員 ↓総務課
- 【二宮祐講師（共通教育系）】出張先Ⅱ中国（12月21日〜12月23日）/目的Ⅱ在上海日経企業新卒採用活動訪問調査
- ◆古閑伸裕教授（機械工学科）/出張先Ⅱタイ（1月21日〜1月26日）/目的Ⅱ日本留学フェアにおける学生募集活動
- ◆川島信也主任（総務部付）/出張先Ⅱタイ（1月21日〜1月26日）/目的Ⅱ同前
- ◆鈴木宏典准教授（ものづくり環境学科）/出張先Ⅱタイ（1月24日〜1月28日）/目的Ⅱ第7回知能システム・モデリング・シミュレーション国際会議での研究発表
- ◆田中隆治准教授（英語教育センター）/出張先Ⅱカナダ（1月30日〜2月28日）/目的Ⅱ海外英語セミナー参加学生の現地指導及び支援
- ◆二宮祐講師（共通教育系）/出張先Ⅱアメリカ（2月18日〜2月23日）/目的Ⅱ米国大学院修士課程修了者の専門職化に関する訪問調査

国外出張

- ◆サンフランシスコキャリアフォーラム2016訪問調査
- ◆神林靖准教授（情報工学科）/出張先Ⅱイタリ（2月23日〜2月28日）/目的Ⅱ第7回エージェンと人工知能国際会議での論文発表
- ◆木村貴幸助教（電気電子工学科）/出張先Ⅱアメリカ（3月5日〜3月11日）/目的Ⅱ2016年信号処理学会非線形回路、通信、信号処理に関する国際会議で研究発表
- ◆松浦隆文助教（情報工学科）/出張先Ⅱアメリカ（3月5日〜3月11日）/目的Ⅱ同前
- ◆黒津高行教授（生活環境デザイン学科）/出張先Ⅱネパール（3月7日〜3月19日）/目的Ⅱネパールにおける文化遺産被災状況調査事業に伴う現地調査
- ◆波多野純教授（生活環境デザイン学科）/出張先Ⅱネパール（3月13日〜3月18日）/目的Ⅱネパール国ゴルカ地方地震による建築物の被災状況緊急調査と救済対策
- ◆野口憲治助手（建築学科）/出張先Ⅱ同前/目的Ⅱ同前
- ◆二宮祐講師（共通教育系）/出張先Ⅱアメリカ（3月13日〜3月21日）/目的Ⅱ米国大学院修士課程修了者の専門職化に関する訪問調査

編集後記

卒業生諸君、学位取得おめでとう。ご卒業にあたり、佐藤一斎の言を紹介したい。▼彼は陽明学に傾倒した江戸後期の儒者である。代表作に『言志四録』などがある。▼その語録には「春風を以て人に接し、秋霜を以て自ら慎む」という一文がある。秋霜とはすなわち「秋の霜」で、厳しくおごそか、のたとえだ。▼つまり、同じ厳しさでも他人に厳しいのは誰にでも出来る。だからこそ、どうしても自慢をしたければ、自分に厳しくするべきである。と

お楽しみください。また、町では、桜と町の風景をテーマに「桜の写真コンテスト」を開催しています。町内であれば撮影場所は問いません。皆さんの感じた宮代の春を一枚の写真にしてお寄せください。▼「桜市」や「桜の写真コンテスト」の詳細は、広報3月号や町ホームページでご確認ください。

春のオープンキャンパス

大学ってどんなところか見てみよう！

学科紹介・研究室ツアー
体験授業・個別進路相談など

3/26 (土)